

地域に必要とされる お店であり続けたい

洗濯業や美容業など、私たちにとって身近な生活関連サービス業。その事業者はコロナ禍での外出自粛や、イベントや冠婚葬祭の激減のあおりをじかに受けており、創業以来最も厳しい状況にあるという方も少なくありません。それでも、人々の生活に密着しているからこそ、事業者は店の灯を消すまいと歯を食いしばっています。これからも地域に必要とされるお店であり続けたい」という、サービス事業者の誇りを胸に秘めています。



染み抜きやアイロンがけなど、手仕上げにこだわる本多さん。長年の経験で汚れの原因と成分を見抜き、どんな頑固な汚れも落として、衣類を美しく仕上げます。



クリーニングほんだ
本多 栄一 さん（安岐町中園）

お客様に言われて
うれしかった言葉

お店を
やめられたら困る

商売をしていて、これほどうれしい言葉はありません。お客様の温かい言葉に、コロナ禍を乗り越えるパワーをいただいています。

地域唯一のクリーニング店として

やれるところまで商売を続ける

昭和38年に父が始めたクリーニング店を継いで、39年になりました。父の代からのお客様で、50年も60年もうちを利用してくれるありがたい方々が何人もいます。その方々は同じ服を何度もうちに持ってきてくれるんですよ。人生の節目節目で大切に着てきた、思い入れのある服だそうです。クリーニングという仕事を通じて、お客様の人生を共に歩めていることを、とてもうれしく思います。

元々、スーツを着る機会の減少や、安価な服を使い捨てる風潮の強まりなどで、クリーニング業界は厳しい状況にありました。そこにコロナ禍と原材料費高騰が重なり、二重三重の苦しみに見舞われています。

専用設備を有し、洗濯から仕上げまで自社内で完結できるクリーニング店は、現在安岐町内ではうちだけになりました。コロナ禍のお客様は減つても、いなくなることはありません。うちを必要としてくれている方々がいる限り、地域唯一のクリーニング店として、やれるところまで商売を続けたいです。



アレッタ
美容室 aletta
堤 征樹 さん（国見町竹田津）

お客様に言われて
うれしかった言葉

あなたに
切ってもらいたい

大分の美容室に勤務していた頃のお客様がいまだにそう言って、何時間もかけて竹田津の私のお店まで来てくれます。本当にありがたいことです。

国見町伊美の出身で、美容専門学校を卒業し、県内外の美容室に勤めて技術を磨いてきました。

言われるとうれしいです。

長男なので地元で独立したいと考え、今の店を構えたのが平成16年。店名のアレッタはイタリア語で「小さな羽」という意味で、私の子どもたちの名前に「羽」の字が付くことにちなんでいます。うちのこだわりは髪にやさしいパーマ液を使っていること。「髪の調子が良くなった」と

言われるとうれしいです。コロナ禍になってお客様の来店頻度が減り、売りに影響しています。しかし、感染リスクを少しでも抑えようとするお客様の判断はよくわかります。美容業はどうしても対面サービスなので、私たちにコロナ禍の収束を願うことしかできません。

後なかなか現れないように思います。でも、美容師の仕事は必ずニーズがあります。地域最後の美容師になっても、皆さんの美しくなりたいという要望に応えるため、髪を切り続けたいですね。



地域最後の美容師になっても
髪を切り続けたい

お客様と長い付き合いがあるからこそ、髪質に合わせたカットやパーマが行えます。「もうちょっと切った」「もうちょっと」の加減を、お客様ごとに把握しているとのこと。